

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品製造業

1. <秋田県 パン >
10月は天候が落ち着き、パンの売上が若干上向きになった。販売個数については前年同月を下回っているが、価格転嫁の効果により売上高は前年同月比で増加した。
2. <福島県 食料品 >
原油の高騰・原材料等価格等の高止まりの影響が出ており、消費が若干落ち着いたことで収益にも影響が出ている。イベント等の再開により観光土産等は回復傾向。
3. <栃木県 麺類 >
原料・資材・コストの上昇に伴い価格転嫁も進んできている。中には、工場が手狭になり新工場を検討している事業者もあり、同業種の中でも好不調・優劣の差が大きくなってきている。
4. <愛知県 製麺 >
10月は催事等も前年に比べたくさん開催され、業販関係は活況だったようである。製粉メーカーより小麦粉の値下げが発表されたが、約1割ぐらいの値下がりになりホッとしている。
5. <山口県 パン・菓子 >
電気・ガス・ガソリンの補助金のおかげで収益の改善がみられる。雇用情勢は厳しく、欠員の補充ができない状況である。
6. <熊本県 麺類 >
業界景況については好転している傾向にある。新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベント開催等の規制が解除されたことが大きいと思われる。

繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >
取引先メーカーからの発注が減少しており、同業者の中には仕事が薄い状況が続いたため、価格転嫁が進むどころか値下げを余儀なくされる会社もあるなど、依然として厳しい状況にある。
8. <福島県 縫製 >
受注減の予想に反し、10月は先月に引き続き生産量をキープすることができた。業界的にはシャツ等の売上が好調だった。物価の上昇により資材の高騰が続く、今後も売上に影響することが懸念される。
9. <静岡県 織物 >
全体的に受注は前年度に比べ好転してきている。特に浴衣の来年度の受注が順調に入ってきている。コロナ禍で生産能力が減少し高齢化も加わり、広幅織物を小幅織物に転用をしながら急場を凌いでいる。
10. <石川県 ねん糸等 >
売上、収益共に非常に悪化している。また親企業の価格転嫁に対する認識が少なく、価格転嫁が進んでいない。撚糸業者が減少しているが、その問題と向き合っていない。
11. <岡山県 織物 >
生産量は輸出向けが微増、国内向け等は昨年と大きく違わないが、諸経費も販売価格も上がっており数字的には売上高が伸びている。景況的には昨年同期よりやや微増という実感である。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >
受注についてはコロナ禍前と同等に戻って来たと感じるが、熟練工を中心とした離職者の補充が難しく、旺盛な需要に応えられていない。人員確保については業界全体で取り組む課題である。

木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >
製材受注減少による生産調整期間が、間もなく半年を迎える。これだけ長期間に渡る生産調整はかつて経験がない。賃金上昇が物価高騰に追いつかない状況では、なかなか改善しないのではないかと危惧する。
14. <岩手県 家具・装備品 >
10月の出荷額は前年同月比で2.3%の増加となった。コロナ禍以前の水準には達していないものの、関東方面への出荷が堅調である。
15. <新潟県 製材 >
今年度の前半は非常に動きが鈍く現場が少なかったが、秋口から遅れた分動きが活発になり混みあってきている。また、来年の新規の現場の話が出てきており、来年前半の仕事が少し見えてきている。

16. <和歌山県 家具・装備品 >
10月の業況としてはコロナ禍の昨年に比べ好転しているよう。今動いているのはどれも短納期で飛び入りの依頼が多く、大阪方面の従来の依頼工場が結構手一杯になっていると思われる。
17. <香川県 家具 >
観光、外食、イベント等への消費の変化及び円安、物価高の影響が続いており、家具業界全般に悪い状況が続いている。当組合のうち数社はBtoCの強化や、新しい市場開拓に取り組んでいる。
18. <鹿児島県 木材・木製品 >
製品製材・原木丸太の取扱量並びに販売単価が急激に低下した。その主因は世情不安と諸物価高によるものと推測されるが、地域間景況格差もその一因ではないかと考えられる。

紙・紙加工品製造業

19. <愛知県 段ボール >
全体の段ボール生産は、概ね稼働日数は前年1日増の影響から前年比100%前後の見込みであるが実質は前年割れの状況が続いていると推測される。売上が増加している背景は、価格転嫁による影響である。
20. <岐阜県 機械すき和紙 >
ユーザー各社からの受注数量は減少している。紙業業界は、業者間の格差はあるものの、前月同様に売上高・在庫数量は減少したが、販売価格は上昇した。
21. <大阪府 古紙収集加工 >
新聞古紙・雑誌古紙については回復の見込みは無く、段ボール原紙も減産傾向となっている。輸出市況は新聞古紙の価格は落ち着いているが、東南アジア向けの段ボール古紙・雑誌古紙の価格は上昇している。
22. <島根県 紙製容器 >
値上げ後の価格上昇にユーザーサイドで在庫調整の感がある。業者間では新規顧客へのアプローチに旧価格ベースで見積もりが出ている。
23. <愛媛県 機械すき和紙 >
衛生用紙（トイレトーパー・ティッシューパー等）の国内出荷は、前年同月比3.6%減、2カ月連続のマイナスとなった。トイレトーパーの出荷は約10%減だが、価格修正を反映して売上は増加傾向にある。
24. <高知県 機械すき和紙 >
販売金額は前月に続きトイレトーパーは前年同月比及び前年累計比で増加しているが、販売量は減少している。価格転嫁は一段落ついた状況であるが、厳しい状況にあることに変わりない。

印刷

25. <宮城県 印刷・同関連 >
印刷・情報用紙の国内出荷が前年同期比8.5%減少し、13カ月連続のマイナスとなっており、業界全体での生産性向上、業界外への事業領域の拡大など、各社の戦略設計が求められている。
26. <秋田県 印刷 >
10月の業況は、前年同月比で悪化している。需要の低迷が続いており、受注価格の値上げについては徐々に理解してくれる得意先が増えているものの、収益を改善するまでには至っていない。
27. <茨城県 総合印刷 >
イベント等が制限なく行われ、印刷物の需要面でもプラス要因として捉えているが、紙・インキ等の印刷資材の値上がりを考慮した適正な価格転嫁が難しく、収益状況、資金繰りで窮屈な状況は続いている。
28. <新潟県 印刷 >
印刷需要は戻ってきているものの、ゼロゼロ融資の返済等により資金繰りがひっ迫してきている。システム化やDXなどで業務の効率化を図るとともに、利益管理を徹底するなど業務の改革が必要。
29. <愛知県 印刷 >
イベント等の復活で印刷需要は戻ってきているが、原材料・光熱費の値上がりにより利益は圧迫されている。WEB広告は増えているが、紙による印刷需要はコロナ前と比べて3割ほど減っている。
30. <兵庫県 印刷・同関連 >
夏以降は、実需が減るなか売上高だけが戻るといふ実感なき回復局面にあり、一方で資材料の久々の落ち着きもあることから、好材料と悪材料が入り混じる状況になっている。

化学・ゴム

31. <神奈川県 石油製品 >
自動車産業の稼働は戻ってきているものの、潤滑油業界全体としての荷動きは悪く、輸入商品の在庫が増加傾向にある。在庫期間が長くなり、資金の回転が悪くなっている。
32. <愛知県 高圧ガス >
輸送機器向けを中心に概ね順調な出荷状況となっているが、二酸化炭素はメーカー設備のトラブルに製造設備の定期修理が重なり供給不安が深刻な状況となっている。

33. <京 都 府 プラスチック製品 >
受注の先行きが見えにくくなってきている。そのため、設備の更新・新規従業員の採用等は控えていく方針との組合員の声があった。加えて、来年初旬までの受注は、先行き弱含みの感が否めない状況である。
34. <奈 良 県 プラスチック >
材料・資材や人件費の高騰による製品価格の値上げ交渉については、一定の理解が得られ受入れられてきた。しかし、売上高の減少と収益悪化に歯止めがかからない厳しい状況である。
35. <兵 庫 県 ゴム製品 >
コストプッシュ型のインフレが続いているが販売価格への転嫁は思うように進まず、利益を圧迫する現状にある。また、一部では人材不足の問題も生じている等、全般的に業界を取り巻く環境は厳しい。
36. <島 根 県 プラスチック製品 >
受注状況については低迷が継続している。昨年、一昨年と各顧客にて材料入荷不安から在庫を積み上げた経緯が有り、その在庫解消が思う様に進んでいない。

窯業・土石製品製造業

37. <栃 木 県 陶磁器・同関連製品 >
10月に入り組合員の陶器生産が増えている。益子粘土の生産もフル回転しており、その他購買品の売上も順調だ。観光客が平日にも訪れるようになり、販売店も賑わっている。
38. <埼 玉 県 窯業・土石製品 >
建設物の積算資料表示価格が早期に値上げ後の価格に改定された事で、値上げ価格反映は順調である。但し、更なる原材料値上げの話が具体化しており、経営的には安定していない。
39. <神 奈 川 県 砕石 >
生コンクリートの出荷はトータルとして前年より増加しているが、骨材の出荷は前年より減少した。骨材コストの上昇により戸建てが減少し、小型生コンクリートの出荷も減少している。
40. <岡 山 県 鋳物 >
中国向けは建設機械、工作機械、ロボットなど大きく減産となっており回復時期も不透明な状態。中国の景況感調査では、この10月に再び50を割り込んだ模様で微妙な状況が続くと思われる。
41. <香 川 県 石材 >
インボイス制度、物価高の影響を受けて、大変厳しくなっていると聞いている。産地全体で加工賃の値上げに踏み切る時期にきているのではとの声が多く、検討している状況である。
42. <沖 縄 県 ガラス製品 >
コロナ禍でストップしていた団体客が戻ってきて、店舗での直販売上はコロナ以前とほぼ同水準まで伸びた。一方で、人員はコロナ以前よりもだいぶ減っているため、生産や梱包に必要な人手が足りていない。

鉄鋼・金属製造業

43. <秋 田 県 鉄鋼 >
10月は、全体としては前年同月比不変で推移したが、原材料費、副資材費をはじめ、運賃、電気料金など製造原価の上昇分が少しずつ転嫁できるようになってきたため、販売価格は前年同月比で上昇した。
44. <東 京 都 金属製品 >
中国の鋼材輸出量が多く、アジアの鋼材価格は続落基調。日本の鉄スクラップの主要輸出先の購入意欲が低調のため、景況感は悪化と言わざるを得ない。
45. <鳥 取 県 金属加工 >
建築関係は、県内でも民間物件の動きが出ているが、現状まだ仕事量が少ないため、価格面での折り合いが厳しい。今はまだ仕事確保出来ている地元大手も、12月は仕事が薄いようで、先行き不安な状況。
46. <岡 山 県 鉄工 >
受注は概ね堅調で設備操業度も上昇している。しかし、原材料費や電力料金が高止まりし、収益に繋がっていない。また、人手不足が顕著で、先行きが見通せない。
47. <徳 島 県 ステンレス >
引き続き、国内外ともに設備投資も含め企業活動は持ち直してきている。生産面では、電子部品等の納期遅れや、物価上昇に伴うコストUPの状況が継続しており、様々な対策の実施をしている状況である。
48. <熊 本 県 鉄鋼・金属 >
大きな浮沈みはないものの、前年比では生産高は減少。半導体関連企業も前年比では2割減といったところである。全体的に値上げ傾向にあるため、少しずつ資金繰りにも影響が出始めているようである。

一般機器製造業

49. <秋 田 県 金属加工 >
受注については、9月は前年同月比約20%の落ち込みであったが、10月は、前年同月比で約30%減少と悪化した。さらに、先行きが不透明となっており、資金繰り面で厳しい工場もある。

50. <山形県 その他の電気機械器具>

最近、建物設備更新需要等が高く、それに付随する前期設備・配電盤等の受注が増加してきている。人員増加のため採用を増やしてはいるものの、採用後すぐの退職が多く定着率が極めて悪い。

51. <山梨県 業務用機械器具>

前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲20%となった。業界全体で半導体関連・設備関連の受注量の減少が続いている。原材料や燃料等の価格高騰分の転嫁も進まず、経営環境は厳しさを増している。

52. <三重県 一般機器>

自動車関連は先月に引き続き受注は高いが、住宅関連は低調となった。昨年と比べると105%増であるが、中国や欧州の方で受注が減り、11月は少し落ちるとの情報が入っている。

53. <富山県 金属工作機械>

受注状況について、軸受、工作機械は前月及び前年より増加しているが、ロボット関連が大幅に減少しており、前年同月比85.72%となっている。現状、売上高は工作機械関連等でカバーしている状況。

54. <奈良県 機械>

原材料費の高止まり、輸送費・エネルギー価格・人件費の高騰、人手不足等により、厳しい経営を強いられている。仕事の引き合い・受注は、やや良好であるが、諸経費の高騰が収益を圧迫している。

電気機器製造業

55. <群馬県 電気機械器具>

普及機の国内需要はあるものの、中国市場の冷え込みが影響し減産傾向にある。高級機においても、ロシアへの供給停止を受け減産となっている。

56. <長野県 電子機械器具>

業況が悪化している。前年同期に比べても業況は悪化している。経営上の問題点としては、企業により様々ではあるが、共通して需要は停滞している。大きく回復する見込みがない。

57. <山梨県 電気機械器具>

半導体関連、医療機器、光学製造装置など、昨年と比べ受注量が大幅に減少し、前年度対比で売上げ▲40%、収益状況▲35%となった。新たな取引先や分野へは、技術的な面や競合相手が多く、難しい。

58. <三重県 電気機器>

業績は好転せず、30~40%ダウンの状況が続いている。産業機器関連の内容も非常に悪く回復傾向が見られない。

59. <富山県 電子部品・デバイス>

売上について、前年同月比は減少しており、民生機器向け、工作機械・産業機械向けは低調、自動車向けは横ばいとなっている。円安の影響で仕入価格の高騰が続いているため、収益悪化に変わりはない。

60. <広島県 電気機械器具>

売上は前月比▲10%、前年同月比▲20%となった。前年比は在庫調整と景気後退の影響により減少、次年度下期（来年10月以降）には若干回復する見通し。

輸送用機器製造業

61. <茨城県 自動車部品>

取引条件についてはやや厳しさが感じられる。売上高は全体的に増加傾向にあり第1、第2四半期ともに例年を上回っている。

62. <愛知県 輸送機器>

売上高は、増収先が増えてきたが、相変わらず5%前後の減収先や5~10%増収先が等があり、バラツキがある。収益性、資金繰りはほぼ横ばいで特段の問題は見当たらない。

63. <岐阜県 輸送用機器>

当組合組合員の対象月の対前年度売上高は、各社平均で約35%増加した。期首からの7カ月では40%増の状況で、当面の目標としていた令和元年度売上高の80%レベルまで回復した。

64. <三重県 輸送機器>

昨年比にて、価格転嫁による売上増加分は見られるが、物量減少による売上減少は顕著である。利益面は昨年比から改善あるものの、価格転嫁によるところが大きく、好業績によるものとは言えない。

65. <兵庫県 輸送用機械器具>

前年同月比6.7%の増収であった。まだまだ喜べる状況ではないが、2023年度通期の予想売上高は残り2カ月を現状数値で推移すれば、直近5年間では一番良い売上高となる。

66. <山口県 鉄道車輛・同部品>

鉄道車両関係は海外からの受注があり順調に推移しているが、受注量は2024年度後半以降から減少となる見通し。2026年度からは回復の兆しはある。英国の高速鉄道計画の動向について注視している。

その他の製造業

67. <福島県 漆器 >
来店客の売上は消費税増税前並になった。ネット通販、インバウンドは順調に推移。百貨店の動きはほとんどない。職人の廃業等により生産に支障が出てきている。
68. <東京都 靴 >
10月末になり、ようやく秋らしい気候となったが、まだまだ暑い日が続く見込みで、秋物の売上が芳しくない。この状態が続くと得意先の発注が遅れ、更に受注の先細りに拍車がかかる様相。
69. <福井県 眼鏡工業 >
OEMを中心に受注は堅調も、リードタイムの改善が進まず、生産性が向上しない。そのため、資金繰りにも影響が出始めている企業もある。
70. <奈良県 毛皮革 >
加工については、単価に変動はなく今シーズンの注文が入っている。10月は組合として展示会に出展し、認知度の向上とPRに取り組み、多くの商談ができたので、販路を拡大していければと期待している。
71. <和歌山県 その他 >
前年前月比の売上高は増加した。秋物や冬季に備えた商品の流通が増加している。しかし、引き続き不安定な為替のため収益状況は悪い。インボイス対応出来ていない取引先もあるよう。
72. <香川県 綿寝具 >
10月の業況は前年同月と比べて少し増加した。月初めから小売店の売上が少し減少したが、だんだん忙しくなり売上が増加した。11月から防衛省発注の仕事があるので、来月は楽しみである。

《非製造業》

卸売業

73. <宮城県 鮮魚 >
10月に、年に1回の「どっとまつり」が開催された。2日間で15,000人近い来場者数となり、昨年よりも3割増と賑わった。行楽シーズンに突入し、観光客の来場も増えている。
74. <群馬県 各種商品 >
住宅やオフィスにおける高価格帯の改修・リフォーム需要が堅調で、売上は増加。また、原材料費の高騰を製品価格へ転嫁したため、販売価格は上昇した。
75. <東京都 電線 >
建設向け工事用汎用電線の荷動きは堅調に推移している。ただ、施工側の人手不足で工期の遅れが散見される。2024年問題を控えて懸念が残る。
76. <岐阜県 電設資材 >
先月に続き、民間・公共ともに見積もり量や発注数が増加傾向である。今後の波及効果も鑑み、年末と年度末に向けて、施主、取引先へ早めの動きや準備の喚起をしていく必要がある。
77. <大阪府 電気機器 >
企業間格差あるも業界全体としては前年度同月対比増収・増益。粗利率は弱含み（前年対比）である。業界全体としては、安定した推移を確保。各組合員とも相応の業績を確保している。
78. <山口県 乾物 >
倉庫売上は前年に比し大幅に増加している。いりこが前年より倍の取れ高となり、それに伴い倉庫の入庫量が増加した。一般的に海産物の入出庫が好調である。

小売業

79. <北海道 各種商品 >
例年より気温が高く天候も良かったので人通りも多く観光施設や飲食店等が賑わっている。業種別では設備関係が125%、家電が108%と前年を上回ったが、食料品では98%と辛抱しながらの消費が伺える。
80. <青森県 食料品 >
店内イベント企画、弁当のテイクアウト等、好調に推移しつつあるものの、物価高騰の影響を至る所に感じる。特に、包装資材等の値上がりもそろそろピークアウトと言われているため、状況を注視したい。
81. <群馬県 燃料 >
燃料油価格激変緩和補助金の適用により、販売価格は前月比低下も前年比上昇となった。緩和措置期間が来年4月までと発表され、寒い時期に値上げとなる不安は解消された。
82. <京都府 食肉 >
あらゆる物価高騰で消費が低価格商品に流れる中、品質の良いもの、価値があるものは販売が伸びてきている。しかしながら、多くの店舗で人手不足感があり、チャンスロスが多くあると思われる。
83. <大分県 露天商 >
催事等が完全に復活し、催事毎の客足の伸びも順調であり、先月と同様に当組合の売上も堅調であるが、11月以降、祭典等の催事が減少することから、収益面で若干の不安がある。
84. <宮崎県 小売商業 >
一度は安定してきた青果物の価格上昇が続いている。その他の商品も値上がり続き、さらに最低賃金も上り、利益がでない店があるようだ。

商店街

85. <青森県 商店街 >
急激な気候の変化に衣類関係は苦戦を強いられている様子。一方、紅葉目当ての観光客により、休日の宿泊施設は満室が多く、飲食店もまずまずの状況。その他、クルーズ船の外国人旅行客も多く見られた。
86. <三重県 商店街 >
昨年まで中止・延期されていた秋のイベントも次々と開催され活気がみられる。またスポーツ集客事業も活発に開催されており、市内の宿泊事業者や観光関連事業者も売上増に繋がっていると感じる。
87. <石川県 商店街 >
商店街なので業種は様々であるが、観光客も増加し、持ち直しの傾向にあるように感じる。9月の暑い日が10月に入って冷え込んだ日もあり、季節商品を販売しているお店でも売り上げのアップがあった。

88. <奈良県 商店街 >
 過ごしやすい季節になったので、人の流れが多くみられるようになった。商店街近隣のホテル利用者や旅行、買い物でバスを利用される人も多く、飲食店を中心に日中は活発になっている。
89. <長崎県 商店街 >
 10月下旬になり、ようやく秋らしい気候となった。人流も増加し観光船の寄港もあり、商店街は賑わいを取り戻している。秋・冬物商品の売上増加を目指して各店とも励んでいる。
90. <沖縄県 商店街 >
 通行量対前年比約140%程度、対前年同月22カ月連続増加。全国旅行支援の宿泊割引延長による需要喚起のほか、県内イベントの開催や、大型クルーズ船寄港増があったことから好調に推移している。

サービス業

91. <千葉県 ソフトウェア >
 IT投資に係る引き合い案件が増加している。ただし、人材採用は思うように進まず、優秀な人材の確保は各社課題となっている。中小企業では賃上げ原資となる収益確保、または費用の転嫁（改定）に苦しんでいる。
92. <東京都 廃棄物処理 >
 深刻なドライバー不足になっている。廃棄物処理業界は収集、運搬の効率化が非常に難しく対応に苦慮している。
93. <神奈川県 温泉旅館・ホテル >
 外国人客が多く、欧米、アジアとまんべんなく入ってきている。日本人団体客もさらに増加しており、10月も引き続き1カ月を通して各施設で高稼働が続いた。
94. <滋賀県 旅館・ホテル >
 10月の前半は少しお客様の入りが減り、10月の後半から、ようやく紅葉需要もあり徐々にお客様が増えつつある。今年はインバウンドも好調で、台湾、香港、韓国などからのお客様がお越しになっている。
95. <京都府 自動車整備 >
 自動車整備業界における中小企業・小規模事業者は、車の著しい進化に取り残されないように努力が必要であり、労働力不足の対応として外国人労働力が重要となっている。
96. <徳島県 旅行 >
 行楽シーズンということもあり、旅行需要は増加している。ただし、バスの新料金の影響やホテル、旅館の値段が上がりによる販売価格の上昇等、不安要素はある。

建設業

97. <岩手県 塗装工事 >
 資材・塗料の値上がりや従業員不足のため中小零細業者と大手との差が大きくなっている。来年4月から時間外労働の上限規制が適用され、アスベスト対策等の基準がより厳しくなる等、対策に苦慮している。
98. <福島県 建設 >
 公共土木工事は徐々に増えてきているが、砕石・コンクリート二次製品・生コン等の資材を使用する工事は少ない。福祉施設、校舎、工場、倉庫等の若干規模の大きい建築工事が着工している。
99. <神奈川県 空調設備工事 >
 県内はいまだに工事量が他県より少ない。見積りはあるが年明けの工事などで年内は厳しい状況が続く模様。また、物価全体の値上げ止まらないので利益が上がらない厳しい状況が続く。
100. <山梨県 型枠大工工事 >
 資材の価格高騰分の転嫁が進まない状況に加え、週休二日制の導入により、売上げ・収益状況が好転する訳がなく、賃上げも困難であることから若手人材の確保もできず、転職する職人が増加している。
101. <和歌山県 総合工事 >
 公共工事の受注状況は国・県・市町村工事全ての発注機関で減少となった。働き手不足の中で建設業においても来年4月から時間外労働規制が適用され、その対応に苦慮している。
102. <山口県 左官工事 >
 今迄契約を断わることのなかった得意先の工事でも、受注を断わる専門工事業者が出始めた。技能者の大幅な減少と値上げ交渉の不調によるものと推測される。

運輸業

103. <宮城県 軽運送 >
 大手運送会社の軽貨物の雇用中止・停止の影響が大きく、個人、グループともに困惑している状態である。一度に12台カットされるグループもある。今後の状況に注目している。
104. <静岡県 道路貨物運送 >
 取引先・荷主側から積極的な運送費の値上げの提案があり、売上げの一部を給与に回し、乗務員の採用を増やすよう要請があった。（年度末までの繁忙期の対応及び、2024年問題の為）

105. < 岐 阜 県 軽 運 送 >
定期配送の終了に伴い売上は減少しているが、スポット配送、小口配送で多少の補いはできている。業界全体では未だ自動車関連の配送が低迷しており、今後の不安材料である。
106. < 奈 良 県 軽 貨 物 運 送 >
チャーター便は、長距離配送も前年の1.7倍と好調な動きで、受注件数・売上とも前年比120%程度の予測。引越し便は、単身者の引越しが増加して、受注件数・売上とも前年の2倍以上の動きとなる。
107. < 広 島 県 道 路 貨 物 運 送 >
今月だけに限らず、7月頃から継続して荷動きが悪い。荷主から往復の輸送依頼は稀で、ほとんどが往路または復路の輸送依頼。したがって、往復の運賃補償はなく、最近では空車で回送することもある。
108. < 佐 賀 県 貨 物 運 送 >
荷動きは、あまり良くなく運賃も大きく上がっており、運行コスト上昇分に対し価格転嫁が十分にはできていない状況である。

その他の非製造業

109. < 千 葉 県 輸 出 入 >
9月より1割ほど売上が、伸びてきた。要因としてインバウンドの利用客の増加が多分に考えられる。日本の秋の紅葉が、一つの観光目玉であり、店舗での外国人買物客の話題からも伺える。
110. < 神 奈 川 県 質 屋 >
社会の好況感も一段落したものの消費意欲は衰えず収入は増えないので、生活や娯楽資金が不足して質屋の融資の利用が増加している。また金の値段が大幅に上昇し、貴金属買取りの客も増加してきた。
111. < 奈 良 県 質 屋 >
為替相場が1ドル150円を超える円安になってきて、依然として高級時計やブランドバッグは海外からの需要が続いている。金価格は1万円/1gを超える高値を維持しており、在庫の価格が上昇している。
112. < 岡 山 県 信 用 組 合 >
資金繰り支援を重点に置いて支援をおこなっているが、物価高、円安の影響により、価格転嫁出来ていない事業社については厳しい状況が続いている。
113. < 広 島 県 不 動 産 >
不動産市場は、材料費の高騰や人手不足で、戸建住宅、共同住宅の建築等が減少しているが、マンションについては新築マンションが増加。中古マンションは依然として販売価格が高値で推移している。
114. < 福 岡 県 砂 ・ 砂 利 ・ 玉 石 採 取 >
販売価格は上昇しているものの各地区共に需要量の減少により収益状況の回復には至っていない。